

# 被災地に派遣された養護教諭の支援活動に関する研究

松田 香織 (G160008)

指導教員：土田 満

キーワード：養護教諭，地震災害，被災地派遣，支援

## はじめに

思いがけない災害に遭遇し，大きなストレスに晒されたとき，子どもたちは心身の問題が表出しやすくなる。日常的に子どもを見ることができる養護教諭を災害時に支援のために被災地の学校へ派遣することは，適切であり，且つ効果的であると考えられる<sup>1)</sup>。2016年に発生した熊本地震では，児童生徒の心のケア等の支援のため，養護教諭が派遣された。派遣される養護教諭の活動については，過去の経験に基づく活動計画や指針はほとんど見られず，派遣される養護教諭の経験と力量に委ねられている部分が多い。実際に熊本地震後に派遣された養護教諭の多くは，見知らぬ土地で限られた期間内に求められる役割が担えるのかという不安が大きかったと報告している<sup>2)</sup>。

以上のような背景を踏まえて，自然災害発生後に被災地に派遣された養護教諭が即応して活動にあたるための基礎資料を得ることを目的とし，3つの調査を実施した。

## 調査Ⅰ：災害時における養護教諭の支援に関する文献調査

### 1. 方法

医学中央雑誌で，“養護教諭” and “地震” “震災”，“保健室” and “地震” “震災” をキーワードに検索し，災害時の養護教諭の支援活動に関する文献40件を対象とした。発表年，災害の種類，文献の種類を分類し，内容はカテゴリー化した後に内容の分析を行った。

### 2. 結果

全体の87.5%は2011年以降に発表されていた。災害の種類では「東日本大震災」が80%を占めていた。「原著」の割合は27%と少なかった。

記載されていた内容は，【養護教諭が行った支援活動】，【養護教諭の在り方】，【保健室の在り方】，【養護教諭の支援ニーズ】，【今後について】の5カテゴリーに分類された。

### 3. 考察

地震災害における養護教諭の支援活動に関する研究は，東日本大震災が契機であることが示唆される。原著論文が少なく，報告や出版物が多くみられるのは，

研究が報告に偏重していることや記録として残すことで風化させない気持ちの表れであると推察される。研究内容では，被災地の養護教諭の立場での記載が中心であり，派遣養護教諭からの記載は見当たらない。派遣元に報告することで終結している可能性がある。

## 調査Ⅱ：派遣養護教諭の活動に関するアンケート調査

### 1. 方法

被災地に派遣された養護教諭15名，受け入れた学校の養護教諭4名に対して2017年6月～10月に無記名式質問紙調査を実施した。基本属性，養護教諭の職務23項目，活動前及び活動中，活動後の思い等である。養護教諭の職務内容は対応のあるWilcoxonの符号付順位検定，MannWhitneyのU検討を行った。解析には，IBM SPSS Ver24 for Windowsを使用した。自由記述の内容は，意味の類似性を考慮し，質的帰納的に類型化した。

### 2. 結果

職務内容の回答結果を点数化し，3点以上を「求められる(求める)と想定した職務」，「実際に求められた(求めた)職務」と区分して検討した。

派遣養護教諭が求められると想定した職務(表1)は，「救急処置」や「健康診断」など7項目，実際に求められた職務は，「救急処置」「健康相談」「健康観察」「健康相談・心のケア」の4項目であった。「感染症・食中毒の予防と管理」「健康相談・心のケア」は，活動前の得点が有意に高く，求められると想定していたが実際は想定より求められなかった。

活動前に，派遣養護教諭が求められると想定した職務(表2)は，「救急処置」や「健康観察」など7項目，受け入れ養護教諭が求めると想定した職務は，「救急処置」や「健康診断」など4項目であった。「健康観察」「健康相談・心のケア」は，派遣養護教諭の得点が有意に高く，派遣養護教諭は求められると想定していたが，想定ほど受け入れ養護教諭は求めていなかった。

表1 派遣養護教諭が想定した職務と実際に求められた職務 (抜粋)

		支援活動 前		支援活動 中		有意差
		M	S D	M	S D	
保健管理	救急処置	3.60	(0.51)	3.33	(1.05)	n.s.
	健康診断	2.87	(1.06)	3.33	(0.90)	n.s.
	健康観察	3.87	(0.35)	3.67	(0.62)	n.s.
	感染症・食中毒の予防と管理	3.33	(0.72)	2.33	(1.18)	**
	疾病及び障害のある児童生徒の管理	3.20	(0.86)	2.73	(1.28)	+
	学校環境衛生	2.93	(0.88)	2.20	(1.02)	+
	施設設備の安全点検	3.07	(0.78)	2.47	(1.23)	+
	計	3.26	(0.41)	2.87	(0.77)	*
保健教育	保健指導	2.67	(0.90)	2.20	(1.02)	n.s.
	保健学習	2.00	(0.84)	1.33	(0.62)	*
	研究活動 (保健により、掲示物等)	3.13	(0.74)	2.93	(1.28)	n.s.
	計	2.26	(0.66)	2.16	(0.75)	+
健康相談	健康相談、心のケア	3.87	(0.52)	3.27	(0.88)	*
	関係機関との連携	2.67	(1.05)	2.06	(1.10)	+
	計	3.23	(0.70)	2.53	(1.04)	*

表2 派遣養護教諭と受け入れ養護教諭が想定した職務 (抜粋)

		派遣養護教諭		受け入れ養護教諭		有意差
		M	S D	M	S D	
保健管理	救急処置	3.60	(0.51)	3.50	(0.58)	n.s.
	健康診断	2.87	(1.06)	3.00	(1.41)	n.s.
	健康観察	3.87	(0.35)	2.50	(1.29)	***
	感染症・食中毒の予防と管理	3.33	(0.72)	2.50	(1.29)	***
	疾病及び障害のある児童生徒の管理	3.20	(0.86)	2.25	(0.50)	+
	学校環境衛生	2.93	(0.88)	3.00	(0.82)	n.s.
	施設設備の安全点検	3.07	(0.78)	2.50	(0.58)	n.s.
	計	3.26	(0.41)	2.75	(0.74)	n.s.
保健教育	保健指導	2.67	(0.90)	2.50	(1.29)	n.s.
	保健学習	2.00	(0.84)	1.50	(0.58)	n.s.
	研究活動 (保健により、掲示物等)	3.13	(0.74)	3.00	(1.41)	n.s.
	計	2.26	(0.66)	2.33	(0.98)	n.s.
健康相談	健康相談、心のケア	3.87	(0.52)	2.75	(1.50)	*
	関係機関との連携	2.67	(1.05)	1.75	(0.50)	n.s.
	計	3.23	(0.70)	2.25	(0.96)	+

自由記述では、派遣養護教諭は、活動前は不安を抱いていたが、周囲のサポートによって派遣への決意や前向きな気持ちを強めていた。活動中は、自分の無力感や困難感を抱きながらも受け入れ校や養護教諭の負担軽減につながるよう活動を進めていた。活動後は、活動を通して得た学びや経験を自校で活かしていた。

受け入れ養護教諭は、活動前は、派遣養護教諭との関係づくりや支援活動の不明確さに関する思いが多くを占めていた。活動中は、想定との相違や受け入れの困難感を抱き、受け入れ側のニーズを考慮してほしいという思いを抱いていた。

### 3. 考察

来室者が多く、受け入れ養護教諭が十分に対応できない状況下で救急処置や健康相談、未実施の健康診断を行っていた。身体的な特徴を捉えやすい養護教諭は、災害時の健康観察においても中心的な役割を果たすことが期待されており、派遣養護教諭に求められた職務であったことが推察される。

『心のケアのため(文科省)』には、災害時の養護教諭の役割として感染症の予防対策が明示されている。求められる役割として認識されていたが、学校再開時には衛生管理がなされ、感染症・食中毒の予防や管理が

必要なかったことが考えられる。健康相談・心のケアが想定する程求められなかったのは、普段の様子を知らない状態での対応に受け入れ側が配慮した可能性が推察される。派遣養護教諭と受け入れ養護教諭の想定との相違は、派遣養護教諭が、派遣元や報道での情報から活動を自らの想像で想定したことにより生じたと考えられる。

思いの分析では、活動前は、派遣に対する驚き・迷いを抱きながらも自分に求められた役割を務めようと決意や覚悟を持って被災地に向かっていた。活動中は、無力感や困難感を多く抱いており、外部からの支援者で職務命令により援助に携わっている者の心理状態<sup>3)</sup>と一致していた。活動後は、日常の大切さへの気付きが自身の養護実践に活かされていた。

### 調査Ⅲ：派遣養護教諭を受け入れた養護教諭へのインタビュー調査

#### 1. 方法

熊本地震において派遣養護教諭を受け入れた学校の養護教諭1名に2017年10月にインタビューを行い、「派遣養護教諭を受け入れていたときの思い」について語ってもらった。大谷によるSCAT法(Steps for Coding and Theorization)を用いて、質的分析を行った。テーマ・構成概念を内容の類似性に基づきカテゴリーを抽出し、思いの変化を分析した。

#### 2. 結果

受け入れ養護教諭の思いの変化として、「派遣養護教諭に関すること」「支援活動に関すること」「自分自身に関すること」の3つのカテゴリーが抽出された。

#### 3. 考察

派遣養護教諭との協働に対して不安を抱いていたが、共に活動したことで肯定的な印象を持ち、派遣養護教諭を思いやる好意的な気持ちに変容していた。その背景には、派遣養護教諭が受け入れ養護教諭の考え方や保健室経営方針を大切にしながらサポートしていたことや派遣者という自らの立場を考えながら互いに情報交流したことが有効であったと推察される。

### 参考文献

- 1) 三村由香里：東日本大震災における養護教諭の役割—震災の状況下でより明らかになった養護実践の必要性、日本健康相談活動学会誌、7(1)、21-24、2012
- 2) 西連寺江里子：ボランティアの視点から見た災害発生時の学校救急看護と養護教諭の役割、学校救急看護研究、10(1)、20-25、2017
- 3) 前田潤、『災害看護学』、p102、南江堂、2008